

第6学年 国語科学習指導案

佐那河内小学校 6年 21名

(佐那河内中学校 1年 17名)

指導者 T1：長谷川 聖子

T2：村山 秀樹

T3：岩根 初絵

1 単元名 ポスターセッションをしよう「星野道夫の世界」

発展教材 「アラスカたんけん記」ほか 8編

2 指導にあたって

(1) 単元の構想と展開について

4月に行った国語に関する意識調査の結果、本学級では、話すことについて 38%、聞くことについて 80%、書くことについて 52%、読むことについて 76%の学習者が得意であると答えている。読むことについて調査した内容については「いろいろなジャンルの本を読むこと」や「調べたい本を選び、情報を得ること」に自信があると答えている。実際、読書は好きで、朝の読書の時間などには、熱心に本を読み、読書カードに読みの記録を残している。しかし、本を選択するにあたっては自分の好きなジャンルの本に偏っていることが多く、読書の世界が深まっているとは言い難い。

7月に行った読書会「宮沢賢治の世界」では、賢治の童話を読んで感じたことを中学1年生と伝え合い、作品のもう一つ奥にある意味を考えてきた。中学生と交流する活動は、小学生にとってはより広い視点に出会う機会となり、中学生の意見に素直に驚く姿が見られた。また中学生にとっては、小学生の思いや意見を大切にしながら、グループとして意見をまとめ、成長を自覚する機会となった。ただ、読書会でグループから報告する時間が限られていたため、聞き手との交流が盛り上がったところで中断することになり、残念であった。「もっと発表したかった。」という学習者の思いを生かし、より充実した交流をさせたいと考え、今回はポスターセッションで読みを深めることとした。ポスターセッション「星野道夫の世界」では、前単元「森へ」をきっかけに星野道夫の他の作品に触れ、生き方について考えたり未知の自然の物語を味わったりしたことを、書いたり話したりして紹介し合い、読書の世界を広げ深めさせたい。中学生とポスターセッションで交流することで、学習者が互いに相手意識をもち、より意欲をもって取り組むことができるのではないかと考えている。

(2) 教材について

星野道夫は、極寒の自然が強い死にあらがって生きる命を映像に残そうとした写真家である。星野作品の多くは、物語文とも説明文とも言い切れない。筆者の体験をまとめた文章と、その場で筆者が撮影した写真とで構成された作品である。写真はどれも鮮明で美しく、筆者が体験した自然の美しさ、豊かさ、厳しさ、不思議さを読者にそのまま伝えてくれる。星野道夫の作品をとおして身の回りにあるさまざまな美しいものに気付いていくとき、学習者の感性は育ち、豊かになる。同じ筆者の複数の作品を読み比べることで筆者の生き方を探り、自分自身の読みを広げ深めていくような読書活動につなげていきたい。

(3) 主体的・自覚的にことばを学ぶための手立て

本単元では、昨年まで小学校生活をともにしてきた中学校1年生とポスターセッションをする。中学生とは読書会やキャンプをとおして交流を続けてきた。前回の読書会では、自己の目標を達成した喜びを味わったとか、グループの発表に自分の意見が生かされたことに満足したなどの感想をもつことができ、次の交流に向けて意欲を高めてきた。

今回は前回とは違ったジャンルの本を読み、中学生とグループになって学習することで、多様な読み方にに出合ったり、読みの視点が変わってきたりすることを感じ取って、今までと違う感想をもつであろう。他者と自分の読みを比べ、自分らしさを発見し、小学6年生として自信をもって学習に取り組ませたい。

また、中学生とのポスターセッションで得た気付きや感想を学習の記録に書かせたり、発言させたりする時間を1時間の中に位置付ける。このことにより、読みに対する自己の変容を意識させ、自覚的にことばを学ばせていきたい。

3 単元の目標

(1) 学習者の活動目標

- 星野道夫の作品を読んで、中学生（小学生）とポスターセッションをしよう。

(2) 指導目標

- 優れた情景描写や写真に興味をもち、星野道夫の他の作品へと読み広げていくことができるようにする。
- 情景描写を大事にしながら読み取ったことを中学生（小学生）と話し合うことをとおして、作品の世界を味わい、読み深めることができるようにする。
- 話し合いの流れや相手の意図を把握しながら話したり、互いの意見を関連付けながら聞いたりする中で、考えを伝え合うよさを実感できるようにする。
- 星野道夫の作品から考えたことや感動したことを分かりやすくまとめて書くことができるようにする。

4 単元の評価

	評価基準	○「十分満足できる」と判断される状況 ◎「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導 【 】は評価資料
関心・意欲・態度	ポスターセッションをして星野道夫の作品の世界を味わい読み広げようとしている。	○ 互いに学び合おうとする態度で話し合いに臨み、積極的に話したり聞いたりする中で、自分自身の考えを深めようとしている。 ◎ 話し合い活動の時、発言するタイミングを助言し他者とかかわれるようにする。 【話し合いの観察・学習の記録】
読むこと	自分なりの解釈や分析をいろいろな視点から試みている。【読みの質】	○ 独自性のある解釈や含蓄のある解釈と分析ができる。 ◎ 前単元「森へ」で学習した様々な解釈を出し合う。 【発言の様子・学習の記録】
	立ち止まるべき所でじっくり考えながら読んでいる。【読み方】	○ 意図的に読む速さを意識しながら読んでいる。 ◎ 前単元「森へ」で立ち止まるべき所がどこかをつかませておく。 【観察・学習の記録】
	筆者の心の動きと場面の情景を叙述に即して読んでいる。 筆者のものの見方、考え方、感じ方などについて意見をもって読んでいる。【付けるべき能力】	○ 多様な視点から他者と交流し自分らしさや自分の成長を見い出している。情景を想像しながら、筆者の描き出す世界や考えの奥深さに感動している。 ◎ 情景を想像しやすいように写真をじっくり見せたり、効果的表現に気付いたりできるよう声かけをする。 【学習の記録・発表の内容】
話す・聞くこと	話し合いの流れや相手の意図を把握しながら話している。 様々な意見と自分の意見との関係を考えながら聞き、自分の考えを深めている。	○ 発表を聞き、様々な視点からの読みを自分の読みと結び、自分の考えを深めている。 ○ 話し合うことによってさらに自分の考えを確かにする。 ◎ 学習の手引きを示し、自分の考えをもつことができるようにする。 【発言の様子・学習の記録】
書くこと	必要な事柄を観点ごとに分かりやすくまとめて書いている。	○ 作品の魅力や読んだ感動が伝わるようにポスターに書いている。 ◎ ポスターのモデルを提示し、書き方をつかませる。 【ポスターの文章】

5 単元構想表 (全5時間)

学習活動	学習者の意識の流れ	指導者の主な指導・支援 T1:長谷川 T2:村山 T3:岩根	付けるべき能力
【事前】それぞれの立場から星野道夫について読み深めたり、調べたりする。 1 互いに読み取ったことを発表し合うなかで、本単元の学習の方向を知る。 (2時間) ○読み取ったことを報告する。 ○読みたい本を選び、グループを作る。 ●互いに学習してきたことを生かしながら、個々の作品を読み進める。	【小学生】星野道夫の世界 星野道夫ってどんな人だろう。生き方と重ねながら読むと、作品の味わい方が変わるね。 【中学生】分かりやすく説明しよう 星野道夫についていろいろな視点から調べてきたことを小学生に分かりやすく伝えよう。 互いに星野道夫について調べてきたことを報告し合おう。 小学生と中学生、互いに違った読みをしているね。一つの作品と一緒に読んでみると、どんな意見が生まれるかな。 いろいろな視点から考えられる。視野が広がっているな。 筆者と一緒に旅をしているな。僕たちも、小学生のころはあのように読んでいたのかな。 互いの読みを交流してみたいな。 一つの作品を選び、ポスターセッションの形で伝え合おう。 クマよ アラスカ 星野道夫の ナヌークの イニユニ ック 森へ 「森へ」で学習した読み方を生かして読もう。 星野道夫が伝えなかったものは何だろう。 「森へ」と共通するところは何か。 小学生にいろいろなことを教えてあげたいな。 自分の成長を確かめたいな。 小学生にない広い視点から、本を読もう。星野道夫について考えよう。客観性・広い視点 ことば 読み取ってきたことを発表し合おう。 中学生ってすごいなあ。こんな視点から考えられるんだなあ。 自分たちに分かりやすく説明してくれたなあ。 中学生になると、こう読むことができるのかなあ。 作品に対する考えが深まったよ。 小学生を意識して、うまく伝えることができたかな。 あまりこれまで意識したことにはなかったが、自分の見方や考え方が変わってきたんだな。冷静 鳥瞰的 作品に対する考えが深まったよ。 他の班の発表も聞いてみたい。他の作品も読んでみたい。 作品ごとに全体場で、読み取ってきたことを発表し合おう。(ポスターセッション) 作品は違っても、共通していることは何か。 いろいろな紹介を聞く中で、考えを深めることができた。 中学生(小学生)と交流するって、おもしろいし、ためになるな。 ポスターセッションを通して、読むことに対する自分の成長や、交流の自分にとっての意味を考えてみよう。 ものの見方、考え方が変わったよ。工夫して発表できたよ。 中学生(小学生)と考えを述べ合うことができたよ。 また、他の人の作品でも交流をしたい。	◀それぞれの読みの発達特性に応じた読み深めや調べ活動が展開できるよう、支援する。 T1：五感を働かせる読み T2：星野道夫の生き方をさまざまな視点から評価する読み T3：雰囲気を楽しむ読み ◀互いの発表を聞く中で、読み方の違いに気づくことができるよう助言する。 T1：小学生の立場から中学生の読みに対する気づきや発見を言葉かけし、どのような視点に目を向ければよいかわづかせる。 T2：中学生の立場から小学生のいの違いを自覚させる。 T3：発表に集中できるよう支援する。 ◀個々の学習者の思いに添って本が選べるよう、配慮する。 事前にアンケート等で、学習者の意識の実態を把握しておく。 ◀それぞれの読みの発達の違いやよさを意識しながら、読み深められるよう手引きする。 T1：「森へ」での学習が生かせるよう声をかける。 T2：より広い見方や視点から作品を捉えようと意欲付ける T3：興味をもてるよう支援する。 ◀それぞれの立場からの意見が活発に出され、互いに尊重しあえるよう、環境を整える。 T1・T2・T3：各グループを回りながら、学習者の発表に対する感想を述べたり、時には司会者のような役割で発言を促したりする。 個別指導が必要な学習者に対し、それぞれ事前に指導したり、その場で支援したりする。 ◀計画的に話し合いが進められるよう、時間的な目安を示したり、用紙に書き出す事柄を絞ったりする。 ◀星野道夫の作品をより幅広く、深く読み味わおうとする意欲が高まるよう、意図的に発表の順を組織する。 T1：スムーズに発表に移れるよう、発表者の近くで声を掛ける。 T2：それぞれのグループの発表のよさに目を向け聞くことができるよう、支援する。 T3：落ち着いて活動できるよう支援する。 ◀交流の良さが実感される感想を紹介する。	○作者の生き方と重ねながら作品を読む。 ○自分の意図がわかるように話の組み立てを工夫しながら話す。 ○情景描写や説明を読み作者の描いた世界と出会う。 ○自分なりに読み取り意見をもつ。 ○必要な事柄を観点ごとにわかりやすくまとめる。 ○目的意識をもって発表を聞き自分の考えを深める。

6 本時の学習

(1) 本時の学習について

本時では、グループごとに自分たちが選んだ作品やテーマについて伝えたいことを発表し合う。様々な視点からの発表を聞いて自分の読みと比べ、自分の読みの変容を自覚させたい。

(2) 目標

① 学習者の活動目標

カッコいいポスターセッションをしよう。

② 指導目標

グループごとに自分たちが選んだ作品やテーマについて伝えたいことを発表する活動をととして、他者の読みに触れ、自他の共通点・相違点を聞き分けるなどして、自分の考えを育てることができるようにする。

(3) 展開

時間	学 習 活 動	指 導 ・ 支 援
5	1 本時の活動目標を確かめる。 カッコいいポスターセッションをしよう。	1 友達の発言をよく聞き、よさを認める態度や自信をもって発表する態度など「カッコいい」の内容を考えさせる。
5	2 グループごとに自分たちが選んだ作品やテーマについて発表する準備をする。	2 前時でまとめたことを分かりやすく発表できるように助言する。
30	3 グループで話し合ったことを全体の場で発表し合う。 ○ 作品ごとに発表する。 ○ 発表内容について質疑応答を行う。	3 星野道夫の作品をより広く深く、読み味わおうとする意欲が高まるよう、意図的に発表の順を組織する。 T1：スムーズに発表に移れるよう、発表者の近くで声をかける。 T2：それぞれのグループの発表のよさに目を向け聞くことができるよう、支援する。 T3：落ち着いて活動できるよう支援する。
10	4 学習のまとめをする。 ○ 学習の記録を書く。 ○ 発表する。	4 交流のよさが実感される感想を紹介する。 次時に発表するグループへは発表への意欲が高まるような助言をする。

(4) 本時の評価

話 聞 す こ こ と	様々な意見と自分の意見との関係を考えながら聞き、自分の考えを深めている。	○ 発表を聞き、様々な視点からの読みを自分の読みと結び、自分の考えを深めている。 ◎ 学習の手引きを示し、自分の考えをもつことができるようにする。 【発言の様子・学習の記録】
----------------------------	--------------------------------------	--